



鶴田町長
相川 正光

年頭にあたって

謹んで新年のお祝いを申し上げます。皆さまには、すがすがしい新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大により、諸外国への渡航が制限され、各主要都市においても都市封鎖（ロックダウン）が宣言されるなど、世界中が未曾有の危機に直面した一年でありました。国内においても4月に緊急事態宣言が発令され、翌5月には解除されましたが、夏に開催予定であった2020年東京オリンピック・パラリンピックが延期されるなど、多くのイベントなどが延期や中止を余儀なくされ、国内感染者も20万人に上る事態となるなど、いまだ収束の兆しは見えておりません。

当町におきましても、感染症拡大防止の観点から、「鶴の舞橋桜まつり」、「つるたまつり」や「町民文化祭」、さらには姉妹都市であるアメリカ合衆国オレゴン州フッドリバー市への中学生大使派遣事業が中止になるなど、まさに異例づくめの一年でありました。

このような状況から、国の施策である「特別定額給付金」の給付をは

じめ、町としても独自に「新生児・妊婦特別定額給付金」や「ひとり親世帯臨時特別給付金」、また感染症予防対策商品券「がんばれ鶴田応援商品券」の配布など、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用しながら、さまざまな施策を講じてまいりました。今後も、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、さまざまな施策を検討し、対応していく所存でございます。

町の農産物につきましては、記録的な少雪からその生育状況などが危惧されておりましたが、自然災害に見舞われることもなく、作況指数や価格ともに平年並みの「やや良」であったことから、今後も農家所得のより一層の安定化が図られるよう、関係者への働きかけが必要であるものと考えております。特に、一昨年、農林水産省から地域特性を生かした農林水産品ブランドを保護する「地理的表示保護制度」の対象に登録されましたスチューベンは、昨年も糖

度、色づき共に申し分のない出来栄であり、町といたしましてPRに力を入れるなど地域の活性化につなげていきたいと考えております。「地域おこし協力隊」の山田ご夫

妻におかれましても、関係者の皆さまのご指導の下、昨年初めて自作のスチューベンを収穫され、その出来栄は良好であったと伺っております。昨年新たに「地域おこし協力隊」に加わった川口さん共々、今後も移住者ならではの視点で関係人口の増加など、取り組みのさらなる伸展を目指していただきたいと思っております。

また、4月には、かねてより工事を進めてまいりました統合小学校が開校の運びとなり、4月7日に行われた入学式では87名の新入生が新たなスタートを切ることとなりました。一昨年6月に完成した学校給食センター、そして、12月に完成した体育館や学童保育施設など、新しい環境で学ぶ子どもたちのより一層の教育環境の充実を目指し、今後も町民の皆さまをはじめ、関係各位と連携を密にし、取り組みを進めてまいります。

同じく4月には、富士見湖パーク駐車場敷地内に、国の地方創生活点整備交付金を活用した観光施設「ここにもあるじゃ」が完成し、売店や休憩所兼用のフードコートなどを備えた通年営業の施設としてオープン

いたしました。同時期に利用可能となりました有料駐車場や丹頂鶴自然公園側に整備した大型バス降車帯が冬期間もご利用いただけることから、冬季イベントとの相乗効果も期待され、6月には7年ぶりに丹頂のひなが誕生したこともあり、今後ますます多くの観光客おいでいただけるよう、将来百万人の観光客が訪れることを目標に、より一層のPRの強化に努めてまいります。

12月には、待望の新「保安橋」が完成したことにより、地域内交通の利便性の向上はもとより、町の観光拠点である「鶴の舞橋」への観光道路としても大きな役割を果たしていることから、観光振興と地域の活性化に拍車がかかり当町のさらなる発展に大きく寄与するものと期待しております。そして今後も岩木川流域における野木、菖蒲川、大性地区の「堤防強化対策」として治水事業の促進に努めてまいります。

また、五所川原市、鶴田町、板柳町をつなぐ北五地域の幹線道路である県道五所川原黒石線梅田バイパスの事業につきましても、関係市町との連携を図りながら事業が一層促進されるよう要望してまいります。

ふるさと納税につきましては、昨年度1年間の総額が5,283万7千円でしたが、今年度は12月末現在ですでに8,221万5千円に達し、過去最高額を更新いたしました。返礼品をいたしましては、ご最も需要が高く、多くの皆さまから好評をいただいております。今後も多くのお申し込みをいただけるよう、魅力的なまちづくりのため検討を重ねてまいります。

町の総合計画および昨年の3月に策定された第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、多方面においてさまざまな施策を進めておりますが、今後も検討を重ね、より充実した内容となるよう、仕事と暮らしを支え、健康で長生きできる、そして次世代を育成する町を町民の皆さまと共に目指し、常に新たな施策にチャレンジしながら、町政運営に誠心誠意取り組んでまいりますので、今後もより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに本年も皆さまにとりまして健やかで幸多い年でありませうお祈り申し上げます。新年のあいさついたします。



鶴田町議会議長
北谷 正則

新年を迎えて

明けましておめでとうございませす。町民の皆さまには、心新たに希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。令和3年の年頭にあたり町議会を代表して、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、新型コロナウイルスの影響により、町で開催されるイベントの規模縮小や中止を余儀なくされており、町民の皆さまにもご不便をおかけしております。新型コロナウイルス感染症の脅威は、まだまだ予断を許さない状況であり、これからインフルエンザの流行期もピークを迎えますが、町民の健康と安全を守るため全力で支援してまいりますので、皆さまもできる限りの予防措置をとっていただきますようお願いいたします。

昨年は新型コロナウイルス一色の年でありましたが、明るい話題と

しては、ウイルスのワクチン開発が順調に進んでいるようございませすので、議会といたしましてもコロナに対応した新しい時代を切り開いていくため、町政と一体となり町民の皆さまと共に力強く歩んでまいりたいと考えております。

また、昨年は自然災害が比較的に少ない年でありましたが、7月の豪雨により九州地方は甚大なる被害が発生しており、我が町も被害が限定的であったことは不幸中の幸いと感じております。しかし、近年の異常気象は予想をはるかに超える災害をもたらすため、国による国土強靱化を

目指した防災・減災対策として現在進められている岩木川築堤工事の早期完成を議会としても引き続き国に強く要望してまいります。

町の基幹産業である農業ですが、コメについては、本県の作況指数は105「やや良」となり、10アール当たりの収量は628キロで、2年連続で全国トップとなっておりま

す。リンゴは、5月中旬の落花日以降、一時的に低温や日照不足に見舞われたものの、その後は適度な日照時間と降雨があったことから果実肥大も順調で、収穫量は平年を上回る見通しとなり胸をなで下ろしているところ

です。スチューベンについては、高温多湿で当初の生育環境は思わしくありませんでしたが、9月下旬以降は寒暖差が広がって熟度が進み仕上がりが良好だと聞いております。

農業現場では、農業従事者の平均年齢は年々上昇傾向にあり、労働力不足や担い手不足による耕作放棄地の増加、農業人口の減少は大きな課題になっております。議会といたしましても新規就農等を支援するため国

や関係機関の動向に注視しながら現場に即した対応を要望してまいります。

町の産業経済に目を向けますと、富士見湖パーク内にお土産品売り場

やフードコートが一体となった観光施設「ここにもあるじゃ」が昨年4月よりオープンしております。コロナ禍の影響により当初から厳しい運営を強いられていますが、国のGOTOキャンペーン等の後押しもあり

徐々にではありますが売り上げも伸びてきているようです。また、昨年12月には新「保安橋」が開通し、さらには「鶴の舞橋」の改修工事も始まっており、地域全体の活性化と「鶴の舞橋」を軸とした町の観光拠点として更なる

集客につながることを期待しております。

町の教育関係においては、昨年4月に新生「鶴田小学校」が開校し、12月には屋内運動場も完成しております。今年から屋外運動場の工事が

始まる予定ですが、教育環境の整備は鶴田町の将来を担う子どもたちを育てていくための最重要施策と捉え、これからも議会として行政にさまざまな提案、提言をしていくこと

をお誓いします。町議会は昨年の改選により、正副議長はじめ委員会構成など新たな体制となっており、町議会が住民の代表機関として、地域の実情に

応じたまちづくりや行政への監視機能を十分に発揮するためには、これまでに以上議員活動をより積極的に展開していくことが求められます。二

元代表制の一翼を担う私たちは、町民の皆さまの意思を町政に反映させる重要な役割を担っております。今後とも町民の皆さまから負託を受けた役割と責任を自覚し、豊かな実りを次の世代につなげるため、議員一

丸となつて全力を尽くしてまいります。

結びにあたり、迎えました新しい年が、町民の皆さまにとつて健やかで笑顔の絶えない年でありませすようお祈り申し上げます、議会を代表しての新年のあいさつといたします。